(様式第10)

岡大病総第１２３号
平成２９年１０月２日

厚生労働大臣　　殿

岡山大学病院
病院長　　金　澤

[redacted]

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、平成２８年度の業務に関して報告します。

記

1　開設者の住所及び氏名

住　　所	〒700-8530　岡山市北区津島中一丁目１番１号
氏　　名	国立大学法人　岡山大学

(注)　開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2　名　　称

岡山大学病院

3　所在の場所

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目５番１号　　電話(０８６)２２３－７１５１

4　診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注)　上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科			㊒ ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
⑤神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科
診療実績			

(注) 1　「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科　2消化器外科　3乳腺外科　4心臓外科 5血管外科　6心臓血管外科　7内分泌外科　8小児外科	
診療実績	

(注) 1　「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科　2小児科　3整形外科　4脳神経外科　5皮膚科　6泌尿器科　7産婦人科 8産科　9婦人科　10眼科　11耳鼻咽喉科　12放射線科　13放射線診断科 14放射線治療科　15麻酔科　16救急科

(注)　標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科　2矯正歯科　3歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1　「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2　「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 消化管外科	2 肝・胆・膵外科	3 形成外科	4 小児神経科	5 病理診断科	
6 リハビリテーション科	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21			

(注)　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精　神	感染症	結　核	療　養	一　般	合　計
３４床	２床	ー床	ー床	８１９床	８５５床

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職　種	常　勤	非常勤	合　計	職　種	員　数	職　種		員　数
医　師	289人	293.7人	582.7人	看護補助者	53人	診療エックス線技師		0人
歯科医師	100人	94.5人	194.5人	理学療法士	28人	臨床検査	臨床検査技師	74人
薬剤師	79人	0人	79人	作業療法士	5人		衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人		その他	0人
助産師	21人	1.5人	22.5人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師		0人
看護師	1002人	14.0人	1016.0人	臨床工学士	24人	医療社会事業従事者		3人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員		21人
歯科衛生士	17人	0人	17人	歯科技工士	8人	事務職員		405人
管理栄養士	9人	0.4人	9.4人	診療放射線技師	51人	その他の職員		20人

注）1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
　　2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
　　3「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人　数	専門医名	人　数
総合内科専門医	43人	眼科専門医	15人
外科専門医	47人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	13人	放射線科専門医	14人
小児科専門医	32人	脳神経外科専門医	10人
皮膚科専門医	9人	整形外科専門医	32人
泌尿器科専門医	13人	麻酔科専門医	29人
産婦人科専門医	18人	救急科専門医	9人
		合　計	297人

（注）1　報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
　　2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（　金澤　右　）　任命年月日　平成２９年４月１日

9　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	643.4人	18.7人	662.1人
1日当たり平均外来患者数	2,065.4人	666.7人	2,732.1人
1日当たり平均調剤数			1,083.7　剤
必要医師数			184　人
必要歯科医師数			36　人
必要薬剤師数			23　人
必要（准）看護師数			424　人

（注）1　「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数（毎日の 24 時現在の在院患者数の合計）を暦日で除した数を記入すること。

3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10　施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	m² 1,161.6	鉄筋コンクリート	病床数	60 床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	［固定式の場合］ 床面積 234.5 m² ［移動式の場合］ 台数 ― 台				病床数	25 床
医薬品情報管理室	［専用室の場合］ 床積 40.5 m² ［共用室の場合］ 共用する室名 ―					
化学検査室	362 m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）全自動化学発光免疫測定装置,生化学自動分析装置 外			
細菌検査室	130 m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）微生物分類同定分析装置,全自動細菌同定感受性検査装置,孵卵器 外			
病理検査室	197 m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）自動包埋装置，自動染色装置，自動免疫染色装置，クリオスタット 外			
病理解剖室	111 m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）解剖台，遺体保存用冷蔵庫 外			
研究室	5,126 m²	鉄筋コンクリート	（主な設備）ドラフトチャンバー，クリーンベンチ，冷蔵庫，冷凍庫，中央実験台 外			
講義室	1,281 m²	鉄筋コンクリート	室数	7 室	収容定員	947 人
図書室	1,938 m²	鉄筋コンクリート	室数	11 室	蔵書数	225,450 冊程度

（注）1　主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2　主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		71．0％	逆紹介率	82．2％
算出根拠	A：紹介患者の数			20,512人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			24,782人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			892人
	D：初診の患者の数			30,146人

(注) 1　「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2　「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3　A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
石川　紘	岡山県医師会	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・(無)	1
松井　健二	大林・松井法律事務所		法律に関する識見を有するため	有・(無)	1
清板　芳子	ノートルダム清心女子大学		医療を受ける者の代表者	有・(無)	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	(有)・無
委員の選定理由の公表の有無	(有)・無
公表の方法 ホームページに掲載	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
LDLアフェレシス療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法	0人
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	0人
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	10人
オクトレオチド皮下注射療法	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肺移植	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。例えば高度な症例としては，健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け，レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を，2人目のドナーから左下葉を摘出し，それぞれをレシピエントの右肺，左肺として移植する術式がある。			
医療技術名	死体肺移植	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ドナーの片肺，または両肺を，移植を受ける方（レシピエント）の片方または両方の肺と入れ替える方法である。			
医療技術名	生体部分肝移植	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全（劇症肝炎など）に対する有効な治療法であり，当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。			
医療技術名	死体肝移植	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳死のドナーから通常，肝臓全部を採取し，それをレシピエントに移植する方法である。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	8	56	ベーチェット病	94
2	筋萎縮性側索硬化症	43	57	特発性拡張型心筋症	112
3	脊髄性筋萎縮症	4	58	肥大型心筋症	27
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	22	60	再生不良性貧血	51
6	パーキンソン病	263	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	10	63	特発性血小板減少性紫斑病	47
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トゥース病	3	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	86	66	IgA 腎症	54
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	41
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	59	68	黄色靭帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	25	69	後縦靭帯骨化症	94
15	封入体筋炎	2	70	広範脊柱管狭窄症	16
16	クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	95
17	多系統萎縮症	30	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	79	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	4	74	下垂体性PRL分泌亢進症	24
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	12
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	3
22	もやもや病	93	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	40
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	132
24	亜急性硬化性全脳炎	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	2
25	進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	10	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	136
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	52
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	63
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5
34	神経線維腫症	45	89	リンパ脈管筋腫症	21
35	天疱瘡	29	90	網膜色素変性症	21
36	表皮水疱症	4	91	バッド・キアリ症候群	6
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	95
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	9
40	高安動脈炎	29	95	自己免疫性肝炎	23
41	巨細胞性動脈炎	2	96	クローン病	164
42	結節性多発動脈炎	15	97	潰瘍性大腸炎	401
43	顕微鏡的多発血管炎	56	98	好酸球性消化管疾患	4
44	多発血管炎性肉芽腫症	21	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	14	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	16	101	腸管神経節細胞僅少症	0
47	バージャー病	11	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	243	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	87	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	106	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	24	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	14	108	TNF受容体関連周期性症候群	1
54	成人スチル病	9	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	3
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	2
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜症	1
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	6
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	有馬症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR－X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	1	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	1
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	1
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治類回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	7	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	4
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	4

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
211	左心低形成症候群	2	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	3	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	1	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	1	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	3	263	脳腱黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	5	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	4	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	1	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	26	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	3	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	1	274	骨形成不全症	3
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
231	α1－アンチトリプシン欠乏症	2	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	2
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	3
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	3
234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膵炎	0
251	尿素サイクル異常症	1	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	3
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース－1－リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	33

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L―アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5　届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊婦管理加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・病棟薬剤業務実施加算1及び2
・特定機能病院入院基本料（一般）	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料（精神）	・退院支援加算2
・臨床研修病院入院診療加算	・精神疾患診療体制加算1及び2
・救急医療管理加算	・精神科急性期医師配置加算
・超急性期脳卒中加算	・救命救急入院料1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・救命救急入院料4
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料1
・医師事務作業補助体制加算1	・特定集中治療室管理料3
・急性期看護補助体制加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・看護職員夜間配置加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・療養環境加算	・小児入院医療管理料2
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1及び2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・摂食障害入院医療管理加算	
・がん拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料1、2及び3	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・長期脳波ビデオ同時記録検査1
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）（造血幹細胞移植後）	・脳波検査判断料Ⅰ
・糖尿病透析予防指導管理料	・神経学的検査
・外来放射線照射診療料	・補聴器適合検査
・ニコチン依存症管理料	・ロービジョン検査判断料
・ハイリスク妊産婦共同管理料（Ⅰ）	・コンタクトレンズ検査料1
・がん治療連携計画策定料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん治療連携管理料	・内服・点滴誘発試験
・認知症専門診断管理料	・センチネルリンパ節生検（単独）（併用）
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算1及び2
・薬剤管理指導料	・遠隔画像診断
・医療機器安全管理料1及び2	・CT撮影及びMRI撮影
・持続血糖測定器加算	・冠動脈CT撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・心臓MRI撮影加算
・遺伝学的検査	・乳房MRI撮影加算
・HPV核酸検出、HPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・外傷全身CT加算
・検体検査管理加算（Ⅳ）	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・国際標準検査管理加算	・外来化学療法加算1
・遺伝カウンセリング加算	・無菌製剤処理料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
・植込型心電図検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）	・内視鏡下筋層切開術
・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	・経皮的冠動脈形成術
・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）
・がん患者リハビリテーション料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・透析液水質確保加算2	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・一酸化窒素吸入療法	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る）	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去
・骨移植術（軟骨移植術を含む）（自家培養軟骨移植術に限る）	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
・頭蓋骨形成手術（骨移動を伴うものに限る）	・補助人工心臓
・脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む）及び脳刺激装置交換術	・同種心移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・経皮的大動脈遮断術
・網膜再建術	・ダメージコントロール手術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る）
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）	・体外衝撃波胆石破砕術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術	・腹腔鏡下肝切除術
・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	・生体部分肝移植術
・内視鏡下副甲状腺（上皮小体）腺腫過形成手術	・同種死体肝移植術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、2	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る）	・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）
・同種死体肺移植術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
・生体部分肺移植術	・同種死体腎移植術

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・生体腎移植術	・歯科画像診断管理加算1及び2
・膀胱水圧拡張術	・歯科口腔リハビリテーション料2
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・手術用顕微鏡加算
・人工尿道括約筋植込・置換術	・歯根端切除手術の注3
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・手術時歯根面レーザー応用加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る）	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）（歯科）
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部の通則4を含む）に掲げる手術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・輸血管理料Ⅰ	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・麻酔管理料（Ⅰ）及び（Ⅱ）	・CAD/CAM冠
・放射線治療専任加算	・歯科技工加算1及び2
・外来放射線治療加算	・歯科矯正診断料
・高エネルギー放射線治療	・顎口腔機能診断料
・1回線量増加加算	・口腔病理診断管理加算2
・強度変調放射線治療（IMRT）	
・画像誘導放射線治療（IGRT）	
・定位放射線治療	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・画像誘導密封小線源治療加算（IGBT）	
・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製	
・テレパソロジーによる術中迅速細胞診	
・病理診断管理加算2	
・歯科治療総合医療管理料（Ⅰ）及び（Ⅱ）	
・有床義歯咀嚼機能検査	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	(1.) 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	【病理診断部門】 ・剖検症例検討会　月1回程度 ・消化器内科＋消化管外科とのカンファレンス　週1回程度 ・乳腺・内分泌外科とのカンファレンス　年4回程度 ・脳神経外科との脳腫瘍カンファレンス　月1回程度 ・産科婦人科との婦人科腫瘍カンファレンス　週1回程度 ・頭頸部キャンサーボード　週1回程度 ・消化器内科との肝・胆道系カンファレンス　月1回程度 ・皮膚病理カンファレンス　週1回程度 ・形成外科との血管奇形カンファレンス　年4回程度 【臨床検査部門】 ・総合内科との症例検討会　月1回程度
剖検の状況	剖検症例数　16　例　／　剖検率　8　%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
生殖内分泌H-P-O系を取り巻くモデュレーター因子BMPの解析と応用	大塚　文男	総合内科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
網羅的なゲノム解析によるテーラーメイド腫瘍抗原の同定	近藤　英生	総合内科	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
初期臨床研修医の共感性（Empathy）に関する量的および質的研究	小比賀　美香子	総合内科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
siRNAによるEGFR分子標的薬耐性の克服	頼　冠名	総合内科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
網羅的プロテオーム解析を用いたIPMNの新規良悪性診断法の開発	堤　康一郎	消化器内科	3,120	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
消化器癌における新規癌関連遺伝子REICの機能解析と臨床応用に関する研究	加藤　博也	消化器内科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
肝癌における癌悪性化シグナルを標的とした新規治療法の確立	白羽　英則	消化器内科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
miRNA阻害による効率的肝癌動注化学療法の開発	中村　進一郎	消化器内科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
脂肪肝炎～肝発癌の病期に応じた最適な酸化ストレス介入療法の開発	高木　章乃夫	消化器内科	1,040	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
カルシニューリン阻害薬によるTreg疲弊を救援する低用量IL-2療法の開発	谷本　光音	血液・腫瘍内科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
治癒を目指すための肺癌幹細胞を利用した次世代肺癌マウスモデルの基礎的臨床的検討	木浦　勝行	呼吸器・アレルギー内科	4,290	補	文部科学省科学研究費補助金
特発性間質性肺炎におけるdruggableリン酸化酵素の網羅的解析	木浦　勝行	呼吸医・アレルギー内科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
気道炎症における核内受容体RXR選択的パーシャルアゴニストの効果と作用機序の解明	金廣　有彦	血液・腫瘍内科， 呼吸器・アレルギー内科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
alternative Th17細胞を標的とした慢性移植片対宿主病治療の開発	前田　嘉信	血液・腫瘍内科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
インターロイキン2と抗PD-L1抗体の併用によるGVHD/GVL分離法の開発	松岡　賢市	血液・腫瘍内科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
肺癌の治癒を目指すEGFR-TKI、抗EGFR抗体とベバシズマブ併用療法の効果	大橋　圭明	呼吸器・アレルギー内科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
EGFR肺癌におけるIL-6のEGFR-TKI耐性への関与と克服に向けた研究	堀田　勝幸	新医療研究開発センター	910	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
網羅的なゲノム解析によるテーラーメイド腫瘍抗原の同定	近藤　英生	総合内科	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
エラスターゼ誘導気道炎症および肺気腫進展におけるIL-23の役割の解明	宮原　信明	呼吸器・アレルギー内科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
インターロイキン2の免疫抑制作用を活用する新しい免疫制御療法の開発	松岡　賢市	血液・腫瘍内科	16,640	委	日本医療研究開発機構研究開発費
メトホルミンによる腫瘍局所免疫疲弊解除に基づく癌免疫治療研究	木浦　勝行	呼吸器・アレルギー内科	500	委	日本医療研究開発機構研究開発費
RET融合遺伝子陽性肺癌に対するアレクチニブの有効性を明らかにする研究	木浦　勝行	呼吸器・アレルギー内科	1,300	委	日本医療研究開発機構研究開発費
成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	松岡　賢市	血液・腫瘍内科	650	委	日本医療研究開発機構研究開発費
HLA不適合血縁者間移植の治療成績を向上し、造血器疾患治療における位置づけを明らかにするための研究	前田　嘉信	血液・腫瘍内科	400	委	日本医療研究開発機構研究開発費

小計24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
Vaspinとその相互作用分子から展開するメタボリック症候群関連創薬	和田　淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科	5,330	補	文部科学省科学研究費補助金(一部基金)
脂肪組織のリモデリングを制御する新規蛋白の同定と病態生理学的意義	江口　潤	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
メタボリックシンドロームにおける腎障害とVaspinの意義	中司　敦子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
血清マイクロRNAを用いたANCA関連血管炎における新規バイオマーカーの開発	佐田　憲映	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
バゾヒビンによるミトコンドリア障害の制御を介した急性腎障害治療効果の検討	田邊　克幸	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
心腎連関におけるFGF21とインスリン抵抗性を介する動脈硬化進展機序の解明	北川　正史	腎臓・糖尿病・内分泌内科	910	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
全身性エリテマトーデスにおけるRAGE/HMGB1 Axisの病態的関与	渡辺　晴樹	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
SLE由来T細胞におけるカテプシンEの発現上昇とDNAメチル化による発現制御	宮脇　義亜	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,950	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
遠隔虚血プレコンディショニングを用いた造影剤腎症への総合的治療法の開発	伊藤　浩	循環器内科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
加算微分心電図を用いた分裂性QRSとJ波の定量化による心臓突然死リスクの予測法	森田　宏	循環器内科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
RAGEシグナル抑制による肺高血圧症治療法の新規開発	中村　一文	循環器内科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
腹部大動脈瘤の形成・進展におけるインテグリンの関与とその治療に向けた基盤構築	三好　亨	循環器内科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
胸郭インピーダンスを用いた心不全の早期発見へ向けて	西井　伸洋	循環器内科	2,210	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
運動ニューロン変性を伴う新規遺伝性脊髄小脳変性症Asidan(SCA36)原因遺伝子NOP56によるALSの運動ニューロン変性分子機構の解明	太田　康之	脳神経内科	500	補	日本ALS協会ALS基金研究奨励金
多系統萎縮症の発生リスク因子であるCOQ2遺伝子多型の分子機構解明	太田　康之	脳神経内科	1,000	補	岡山医学振興会助成金
難治性固形癌に対する腫瘍選択的融解ウイルスTelomelysinを用いた放射線併用ウイルス療法の臨床研究	藤原　俊義	消化管外科	58,000	委	日本医療研究開発機構研究開発費
蛍光ウイルス試薬を用いた進行胃癌患者の腹腔内浮遊がん細胞の生物学的悪性度評価に基づく早期再発症例の診断技術の開発	藤原　俊義	消化管外科	18,355	委	日本医療研究開発機構研究開発費
臨床病期I/II/III食道癌(T4を除く)に対する胸腔鏡下手術と開胸手術のランダム化比較第III相試験	藤原　俊義	消化管外科	1,600	委	日本医療研究開発機構研究開発費
外科手術症例登録データならびに医療費データの連係に基づく地域医療体制の評価と改善に関する研究	藤原　俊義	消化管外科	390	委	日本医療研究開発機構研究開発費
食道亜全摘術を行う食道癌患者における急性肺合併症に対するOSK-0028の有効性及び安全性の検討(第II相試験)	白川　靖博	消化管外科	400	委	日本医療研究開発機構研究開発費
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	西﨑　正彦	消化管外科	390	委	日本医療研究開発機構研究開発費
オリジナル抗原HSP105由来ペプチドワクチンのFIH医師主導治験	信岡　大輔	臓器移植医療センター	1,000	委	日本医療研究開発機構研究開発費
がん診療ガイドラインの運用等の実態把握及び標準的治療の実施に影響を与える因子の分析	藤原　俊義	消化管外科	11,000	補	厚生労働省科学研究費補助金
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究	藤原　俊義	消化管外科	100	補	厚生労働省科学研究費補助金
消化器がん個別化医療のための蛍光ウイルスを用いたデュアル体外診断システムの開発	藤原　俊義	消化管外科	9,360	補	文部科学省科学研究費補助金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
転移におけるcluster形成『循環がん微小環境』の解明と標的治療としての可能性	白川　靖博	消化管外科	2,600	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
癌関連線維芽細胞(CAFs)の免疫抑制機構の解明と標的治療としての可能性	野間　和広	卒後臨床研修センター	2,340	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
血漿マイクロRNAを用いた大腸癌肝転移Precision Medicineの構築	楳田　祐三	肝・胆・膵外科	2,340	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
難治性膵臓癌に対する癌特異的p53遺伝子治療の前臨床評価	田澤　大	新医療研究開発センター	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
腫瘍選択的融解アデノウイルス製剤と免疫チェックポイント阻害剤との併用効果の検討	黒田　新士	新医療研究開発センター	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
胃癌の腹膜播種転移に対する高感度蛍光診断技術の開発と治療との融合の検証	菊地　覚次	低侵襲治療センター	2,080	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
炎症性微小環境に起因する胃癌の悪性化進展機構の解明と抗悪性化療法の開発	西﨑　正彦	消化管外科	2,210	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
MicroRNAを用いた新規大腸癌治療戦略の開発	母里　淑子	消化管外科	1,040	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
マイクロビーズ技術を用いた肺がん検診ツールのイノベーションと臨床応用	永坂　岳司	消化管外科	4,550	補	文部科学省科学研究費補助金
ナノメディシンを用いた温熱・免疫療法による腹膜播種の新規治療戦略	岸本　浩行	消化管外科	520	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
消化器癌腹膜転移機構解明に向けての腹腔内遊離癌細胞解析技術の開発	香川　俊輔	低侵襲治療センター	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
アンドロゲン分泌性幹細胞の創出とその応用基盤の確立	杉本　盛人	泌尿器科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
癌抑制遺伝子REIC/Dkk-3による癌化シグナル制御機構の解明	公文　裕巳	泌尿器科	4,420	補	文部科学省科学研究費補助金(一部基金)
尿路平滑筋幹細胞の創出と尿道括約筋再生のための基盤的研究	渡邉　豊彦	泌尿器科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
前立腺癌における悪性形質およびアンドロゲン不応性の一元的制御機構の解明	渡部　昌実	新医療研究開発センター	4,030	補	文部科学省科学研究費補助金
前立腺癌抗原提示能を確立させる樹状細胞内分子機構の解明と創薬への展開	那須　保友	泌尿器科	5,200	補	文部科学省科学研究費補助金
癌増悪因子:CD147 Emmprinを標的とした新規の抗癌免疫療法の基盤の確立	小林　泰之	低浸襲治療センター	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
腎組織幹細胞における病的ストレス制御機構の解明	荒木　元朗	泌尿器科	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
腫瘍融解性Ad-REICを用いた新規癌ワクチン療法の開発	黄　鵬	産学官連携センター	1,950	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
腎組織幹細胞を用いた機能的腎小体の再生	渡部　昌実	新医療研究開発センター	910	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
hTERTプロモーターに基づく癌検出・分離技術の最適化とその応用基盤の確立	植木　英雄	泌尿器科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
メカノメディスン:メカノ医工学を駆使した再生医療・生殖医療への展開	王　英正	新医療研究開発センター	2,925	補	文部科学省科学研究費補助金
エクスプラント心由来の自己幹細胞移植による拒絶緩和と膜組織作成法の開発	新井　禎彦	心臓血管外科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
Diamond-like-carbonコーティングを用いた透析用人工血管の開発	藤井　泰宏	心臓血管外科	2,000	補	日本透析医会研究助成金
管腔内へのDLCコーティング法と高生体連合性腸骨動脈用カバードステントの新規開発	藤井　泰宏	心臓血管外科	1,400	委	岡山県受託研究

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
Ex-vivo Heart Perfusionを用いた心臓移植の臨床応用	小谷　恭弘	心臓血管外科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
成人先天性心疾患の長期予後の視点に基づいた介入のあり方に関する研究	赤木　禎治	心臓血管外科	780	委	日本医療研究開発機構研究開発費
病態解明を目指したリンパ浮腫における慢性炎症メカニズムの研究	木股　敬裕	形成外科	2,730	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
伸展培養法を応用した、より迅速なGreen型培養表皮シート作成の試み	德山　英二郎	形成外科	2,210	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
幹細胞エクソソームと人工生体材料を用いた乳房再建における被膜拘縮制御法の開発	渡部　聡子	形成外科	650	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
乳房再建の治療アウトカムを評価する-患者主観的評価尺度BREAST-Qを用いて-	雑賀　美帆	形成外科	2,600	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
in vivoイメージングを用いたリンパ輸送機能定量的評価法の確立	杉山　成史	形成外科	780	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
骨内微小環境の再現を基盤とした新規頭蓋骨組織再建法の確立	渡邊　敏之	形成外科	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ラットを用いたリンパ管静脈吻合動物モデルの作成	小野田　聡	形成外科	2,210	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
新しい自己集合性ペプチドハイドロゲルの腱癒着防止材としての有用性の研究	向井　裕子	形成外科	2,990	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
コラーゲン結合型VEGF-Cによる効果的なリンパ管新生の研究	松本　洋	形成外科	1,040	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
EBウイルス関連リンパ球増殖性皮膚疾患の病態と予後に関わる分子・細胞マーカー解析	岩月　啓氏	皮膚科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患に対する革新的治療薬を実現するための統合的研究体制の構築	岩月　啓氏	皮膚科	2,210	委	日本医療研究開発機構研究開発費
慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診断・治療効果評価の向上を目指したEBウイルスDNA量のエビデンスの構築	岩月　啓氏	皮膚科	1,000	委	日本医療研究開発機構研究開発費
慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診療ガイドライン作成と患者レジストリの構築	岩月　啓氏	皮膚科	500	補	厚生労働省科学研究費補助金
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	岩月　啓氏	皮膚科	450	補	厚生労働省科学研究費補助金
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究	岩月　啓氏	皮膚科	100	補	厚生労働省科学研究費補助金
表皮角化細胞産生セリンプロテアーゼ阻害因子の発現制御機構の解析	森実　真	皮膚科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
重症表皮水疱症患者における合併症の病態機構解明	天田(梶田)　藍	皮膚科	2,080	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
RAGEを標的とした加齢黄斑変性の新規治療法の開発	白神　史雄	眼科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
外眼筋の固有感覚の生理学的包括的研究	濱崎　一郎	眼科	650	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
網膜におけるキサントフィルの新機能探索と代謝調節機構の解明	森實　祐基	眼科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
難治性黄斑円孔の閉鎖過程におけるミュラー細胞の役割：新たな治療法の開発を目指して	塩出　雄亮	眼科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
AMPキナーゼを標的とした未熟児網膜症の新治療戦略	細川　海音	眼科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
外的ストレスによるiPS由来網膜色素上皮細胞障害の機構解明	木村　修平	眼科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
網膜脈絡膜・視神経萎縮症に関する調査研究	白神　史雄	眼科	9,368	補	厚生労働省科学研究費補助金
NSAIDs不耐性鼻茸培養細胞のエイコサノイド産生異常と持続ウイルス感染実験	岡野　光博	耳鼻咽喉科	1,950	委	日本医療研究開発機構研究開発費
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	岡野　光博	耳鼻咽喉科	650	委	厚生労働省科学研究費補助金
戦略研究を踏まえたリハビリプログラム	菅谷　明子	耳鼻咽喉科	600	委	日本医療研究開発機構研究開発費
難治性聴覚障害に関する調査研究	西﨑　和則	耳鼻咽喉科	500	委	厚生労働省科学研究費補助金
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	西﨑　和則	耳鼻咽喉科	390	委	日本医療研究開発機構研究開発費
中枢神経系疾患に対する細胞移植の臨床応用の扉を開く:カプセル化と電気刺激を用いて	伊達　勲	脳神経外科	4,550	補	文部科学省科学研究費補助金(一部基金)
Bevacizumab誘導性脳腫瘍浸潤に対する新規治療法の開発	伊達　勲	脳神経外科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
グリオーマのBevacizumab治療における血管新生因子CYR61の発現影響	杉生　憲志	脳神経外科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
新規OVと分子標的薬の併用療法	黒住　和彦	脳神経外科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
脳梗塞におけるうつ症状と神経新生	安原　隆雄	脳神経外科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
くも膜下出血後early brain injuryに対する電気生理学的解析	菱川　朋人	脳神経外科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
脳深部刺激療法(DBS)でうつ病は治るのか？	亀田　雅博	脳神経外科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
特発性正常圧水頭症の病因、診断と治療に関する研究	伊達　勲	脳神経外科	200	補	厚生労働省科学研究費補助金
新規腫瘍溶解ウイルスの開発	黒住　和彦	脳神経外科	2,000	委	日本医療研究開発機構研究開発費
4K・フルHD神経内視鏡手術における磁場式ナビゲーションと視覚野誘発電位(VEP)神経モニタリング同時併用の検討	黒住　和彦	脳神経外科	500	補	内視鏡医学研究振興財団研究助成金
岡山県岡山市における脳動脈瘤治療悉皆調査	菱川　朋人	脳神経外科	400	補	日本脳神経血管内治療学会助成金
小児重症心臓・肺疾患におけるストレス応答の評価と新規治療法・予防法の開発	塚原　宏一	小児科	1,950	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
小児リウマチ性疾患の活動性評価に有用なバイオマーカーの検索	八代　将登	小児科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
小児骨髄異形成症候群(RAEB,RAEBT)の分子病態解析	嶋田　明	小児科	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
早産児晩期循環不全発症児におけるNO代謝産物の検討	鷲尾　洋介	小児科	390	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ヒト脳発振現象の直接記録	小林　勝弘	小児神経科	3,900	補	文部科学省科学研究費補助金
小児のてんかん性認知障害の発生に関する脳波分析研究	小林　勝弘	小児神経科	520	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
代謝物質分析によるけいれん重積型脳症の発症予測因子・重症化因子の検討	秋山　倫之	小児神経科	910	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
網羅的代謝物質分析による先天性代謝異常症の効率的診断	秋山　倫之	小児神経科	1,000	補	岡山医学振興会助成金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
CT透視下穿刺用医療ロボットの開発ーロボティックIVRの時代へー	平木　隆夫	放射線科	22,984	委	日本医療研究開発機構研究開発費
外科用吸収糸を用いた新型の胸腔鏡下手術用ガイディングマーカーの開発	郷原　英夫	医療情報部	910	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
有痛性骨転移に対する温度センサー併用下経皮的凍結治療の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	生口　俊浩	放射線科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
血管奇形に対する冷凍療法についての第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験	藤原　寛康	放射線科	520	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
水素豊富生理食塩水の腹腔内投与による術後イレウスの予防	中尾　篤典	救急科	1,040	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
歯硬組織の退行性変化の病態解明ならびに光学的診断の開発と臨床導入	島田　康史	むし歯科	56	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ペプチド核酸を応用した選択的細菌抑制による微生物叢コントロール法の確立	高柴　正悟	歯周科	130	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
カベオリン-1を標的とした結合組織における炎症の抑制制御	冨川　知子	歯周科	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ナノDDSを用いた抗炎症分子標的薬による歯周炎症の制御	井手口　英隆	歯周科	1,560	補	文部科学省科学研究費補助金
抗炎症性低分子化合物terreinおよびその類縁体の歯内歯周疾患治療への応用	大森　一弘	歯周科	1,950	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
炎症メディエーターHMGB1の歯周炎における機能解明	山城　圭介	歯周科	1,950	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
歯周炎・糖尿病・リウマチの共通リスクサイトカイン遺伝子の解明	高柴　正悟	歯周科	910	補	文部科学省科学研究費補助金
歯周炎・糖尿病・リウマチの共通リスクサイトカイン遺伝子の解明	大森　一弘	歯周科	910	補	文部科学省科学研究費補助金
インテグリンの活性制御による歯周組織幹細胞の遊走促進:分子リガンド創製への展開	山本　直史	歯周科	1,430	補	文部科学省科学研究費補助金
TGF-bとナノDDS技術を応用した次世代の歯周組織再生療法の開発	下江　正幸	歯周科	650	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
コラーゲン結合型basic-fibroblast growth factorの歯科領域での応用の検討	高柴　正悟	歯周科	1,000	補	日本医療研究開発機構橋渡し研究加速ネットワークプログラム
マッシュルーム由来レクチンを応用した新規機能性食品の開発(臨床試験による有効性評価)	高柴　正悟	歯周科	2,399	委	岡山県受託研究
BMP−2の環境選択的骨誘導/抑制メカニズムの解明・応用に基づく骨再生療法の開発	大野　充昭	クラウンブリッジ補綴科	7,930	補	文部科学省科学研究費補助金
16SrRNA解析を応用した高齢者の低栄養起因口腔・腸内細菌叢の網羅的探索	水口　真実	クラウンブリッジ補綴科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
大腸菌発現系由来rhBMP-2含有β-TCP製人工骨を用いた再生療法の開発	縄稚　久美子	クラウンブリッジ補綴科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ミトコンドリア機能障害の観点からみた慢性筋痛の病態解析	前川　賢治	クラウンブリッジ補綴科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
iPS細胞樹立技術を応用した象牙芽細胞マスター遺伝子の探索	大野　充昭	クラウンブリッジ補綴科	1,820	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
変形性関節症の発症と進展におけるWISP1遺伝子の機能解析	前田　あずさ	クラウンブリッジ補綴科	2,340	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
要介護高齢者の口腔インプラント予後評価と上部構造維持様式変更の有効性	黒﨑　陽子	クラウンブリッジ補綴科	1,170	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
慢性腎臓病の重症化リスク因子と透析合併感染症起因菌の同定	小山　絵理	クラウンブリッジ補綴科	1,430	補	文部科学省科学研究費補助金

小計25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元	
HMGB1が骨髄由来間葉系幹細胞に与える影響の検討	古味　佳子	クラウンブリッジ補綴科	1,560	補	文部科学省科学研究費補助金
歯胚発生プログラムの解明・応用に基づく歯の再生技術の開発	窪木　拓男	クラウンブリッジ補綴科	7,540	補	文部科学省科学研究費補助金
次世代歯周軟組織再生療法としての角化上皮粘膜誘導制御	前川　賢治	クラウンブリッジ補綴科	5,720	補	文部科学省科学研究費補助金
ステムセルエイジングの制御に向けたアミノ酸による間葉系幹細胞未分化性維持	窪木　拓男	クラウンブリッジ補綴科	1,560	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
再生器官の発生時間軸を制御するマスター遺伝子の探索	大島　正充	クラウンブリッジ補綴科	1,430	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
ホスト幹細胞集積による新規組織再生療法の開発	秋山　謙太郎	クラウンブリッジ補綴科	2,860	補	文部科学省科学研究費補助金(一部基金)
次世代シークエンサーによるインプラント周囲細菌叢の網羅的解析と個別化抗菌療法開発	大野　彩	クラウンブリッジ補綴科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
インプラント周囲炎の生物学的病態解明と免疫学的治療法の開発	三野　卓哉	クラウンブリッジ補綴科	1,300	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
フルオシノロンアセトニド(FA)を用いた変形性関節症の予防・治療法の開発	笈田　育尚	クラウンブリッジ補綴科	1,690	補	文部科学省学術研究助成基金助成金
要介護高齢者の低栄養を防ぐための医師・歯科医師と管理栄養士による口腔栄養関連サービス推進事業	窪木　拓男	クラウンブリッジ補綴科	3,350	補	岡山県補助金
ベトナム北部有名医療系大学の教員を対象に日本の最先端歯学研究や高度な歯科臨床教育を高密度にパッケージ化した短期留学体験事業	窪木　拓男	クラウンブリッジ補綴科	1,169	補	科学技術振興機構
必須アミノ酸トリプトファンを含有した骨再生・骨質改善治療薬の開発	窪木　拓男	クラウンブリッジ補綴科	500	補	日本医療研究開発機構橋渡し研究加速ネットワークプログラム
健康長寿社会を担う歯科医学教育改革－死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築	窪木　拓男	クラウンブリッジ補綴科	4,097	補	文部科学省大学改革推進等補助金

小計13件

合計162件

(注)1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Nishimura Y, Iwamuro M, Ocho K et al.	総合内科	A Rare Case of Diffuse Large B-cell Lymphoma in a Patient with IgG4-Related Autoimmune Pancreatitis.	Acta Med Okayama. 206 Aug;70(4):279-83	Case report
2	Harada K, Iwamuro M, Hanayama Y et al.	総合内科	An Uncommon Manifestation of Fitz-Hugh-Curtis Syndrome with Right-side Chest Pain.	Acta Med Okayama. 2016 Apr;70(2):145-9	Case report
3	Iwamuro M, Kondo E, Otsuka F et al.	総合内科	Detection of Minute Duodenal Follicular Lymphoma Lesions Using Magnifying Endoscopy.	Acta Med Okayama. 2016 Apr;70(2):139-44	Case report
4	Waseda K, Ocho K, Hasegawa K et al.	総合内科	Increased Serum KL-6 Levels Induced by Pulmonary Mycobacterium Avium Complex Infection in a Patient with RA-associated Lung Disease.	Acta Med Okayama. 2016 Jun;70(3):217-221	Case report
5	Ocho K, Iwamuro M, Otsuka F.	総合内科	Multiple Organomegaly Exhibited in a Patient with Graves' Hyperthyroidism.	Intern Med. 2016 Sep;55(18):2737-8	Case report
6	Iwamuro M, Terasaka T, Otsuka F et al.	総合内科	White Feces Caused by the Administration of a Somatostatin Analogue.	Intern Med. 2016 July;55(13):1817	Case report
7	Iwamuro M, Terasaka T, Otsuka F et al.	総合内科	Xanthoma of the Duodenum.	Intern Med. 2016 Oct;55(19):2899-2900	Case report
8	Kimura K, Terasaka T, Iwata N et al.	総合内科	Combined Effects of Androgen and Growth Hormone on Osteoblast Marker Expression in Mouse C2C12 and MC3T3-E1 Cells Induced by Bone Morphogenetic Protein.	J Clin Med. 2017 Jan;6(1):E6	Original Article
9	Iwamuro M, Urata H, Tanaka T et al.	総合内科	Lanthanum Deposition in the Stomach: Usefulness of Scanning Electron Microscopy for Its Detection.	Acta Med Okayama. 2017 Feb;71(1):73-78	Case report
10	Harada K, Hanayama Y, Hasegawa K et al.	総合内科	Paroxysmal Hypertension Induced by an Insulinoma.	Intern Med. 2017 Feb;56(4):413-417	Case report
11	Tsutsumi K, Kato H, Yabe S et al.	消化器内科	A comparative evaluation of treatment methods for bile duct stones after hepaticojejunostomy between percutaneous transhepatic cholangioscopy and peroral, short double-balloon enteroscopy.	Therap Adv Gastroenterol. 2017 Jan;10(1):54-67	Original Article
12	Ako S, Nouso K, Kinugasa H et al.	消化器内科	Utility of serum DNA as a marker for KRAS mutations in pancreatic cancer tissue.	Pancreatology. 2017 Mar - Apr;17(2):285-290	Original Article
13	Matsumoto K, Kato H, Tsutsumi K et al.	消化器内科	Time-dependent image changes after ethanol injection into the pancreas: an experimental study using a porcine model.	Ecancermedicalscience. 2016 Aug;10:663	Original Article
14	Sawahara H, Shiraha H, Uchida D et al.	消化器内科	Novel REIC/Dkk-3-encoding adenoviral vector as a promising therapeutic agent for pancreatic cancer.	Cancer Gene Ther. 2016 Aug;23(8):278-83	Original Article
15	Uchida D, Tsutsumi K, Kato H et al.	消化器内科	Endoscopic ultrasonography-guided drainage of intra-abdominal fluid collection after liver transplantation: a case series of six patients.	J Med Ultrason (2001). 2016 Jul;43(3):421-6	Case report
16	Tomoda T, Kato H, Mizukawa S et al.	消化器内科	Biliary Anastomotic Stricture After Adult Living Donor Liver Transplantation With Duct-to-Duct Reconstruction: Outcome After Endoscopic Treatment Including Rendezvous Procedure.	Transplantation. 2016 Jul;100(7):1500-6	Original Article

小計16件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
17	Tomoda T, Tsutsumi K, Kato H et al.	消化器内科	Outcomes of management for biliary stricture after living donor liver transplantation with hepaticojejunostomy using short-type double-balloon enteroscopy.	Surg Endosc. 2016 Dec;30(12):5338-5344	Original Article
18	Kono Y, Matsubara M, Toyokawa T et al.	消化器内科	Multicenter Prospective Study on the Safety of Upper Gastrointestinal Endoscopic Procedures in Antithrombotic Drug Users.	Dig Dis Sci. 2017 Mar;62(3):730-738	Original Article
19	Iwamuro M, Urata H, Tanaka T et al.	消化器内科	Lanthanum Deposition in the Stomach: Usefulness of Scanning Electron Microscopy for Its Detection.	Acta Med Okayama. 2017 Feb;71(1):73-78	Case report
20	Iwamuro M, Takata K, Kawano S et al.	消化器内科	Magnifying Endoscopic Features of Follicular Lymphoma Involving the Stomach: A Report of Two Cases.	Case Rep Gastrointest Med. 2017 Jan (オンライン);2016:2082698	Case report
21	Iwamuro M, Tanaka T, Ando S et al.	消化器内科	Endoscopic Resection of a Pedunculated Brunner's Gland Hamartoma of the Duodenum.	Case Rep Gastrointest Med. 2016 Jul (オンライン);2016:6707235	Case report
22	Miura K, Okada H, Kouno Y et al.	消化器内科	Actual Status of Involvement of Helicobacter pylori Infection That Developed Gastric Cancer from Group A of ABC (D) Stratification - Study of Early Gastric Cancer Cases That Underwent Endoscopic Submucosal Dissection.	Digestion. 2016 Aug;94(1):17-23	Original Article
23	Iwamuro M, Kondo E, Otsuka F et al.	消化器内科	Detection of Minute Duodenal Follicular Lymphoma Lesions Using Magnifying Endoscopy.	Acta Med Okayama. 2016 Apr;70(2):139-44	Case report
24	Dohi C, Nouso K, Miyahara K et al.	消化器内科	Potential of alpha-fetoprotein as a prognostic marker after curative radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 2016 Aug;46(9):916-23	Original Article
25	Inokuchi T, Kato J, Hiraoka S et al.	消化器内科	Fecal Immunochemical Test Versus Fecal Calprotectin for Prediction of Mucosal Healing in Crohn's Disease.	Inflamm Bowel Dis. 2016 May;22(5):1078-85	Original Article
26	Hiraoka S, Kato J, Nakarai A et al.	消化器内科	Consecutive Measurements by Faecal Immunochemical Test in Quiescent Ulcerative Colitis Patients Can Detect Clinical Relapse.	J Crohns Colitis. 2016 Jun;10(6):687-94	Original Article
27	Ninomiya K, Ichihara E, Hotta K et al.	呼吸器・アレルギー内科	Three-Arm Randomized Trial of Sodium Alginate for Preventing Radiation-Induced Esophagitis in Locally Advanced Non-Small Cell Lung Cancer Receiving Concurrent Chemoradiotherapy: The OLCSG1401 Study Protocol.	Clin Lung Cancer. 2017 Mar;18(2):245-249	Original Article
28	Maeda Y, Nishimori H, Inamoto Y et al.	血液・腫瘍内科	An Open-labeled, Multicenter Phase II Study of Tamibarotene in Patients with Steroid-refractory Chronic Graft-versus-Host Disease.	Acta Med Okayama. 2016 Oct;70(5):409-412	Original Article
29	Asano T, Matsuoka KI, Iyama S et al.	血液・腫瘍内科	Phase I/IIa Study of Low Dose Subcutaneous Interleukin-2 (IL-2) for Treatment of Refractory Chronic Graft Versus Host Disease.	Acta Med Okayama. 2016 Oct;70(5):429-433	Original Article
30	Kubo T, Fujiwara K, Hotta K et al.	腫瘍センター	A phase II study of topotecan and cisplatin with sequential thoracic radiotherapy in elderly patients with small-cell lung cancer: Okayama Lung Cancer Study Group 0102.	Cancer Chemother Pharmacol. 2016 Oct;78(4):769-74	Original Article
31	Katsuyama E, Sada KE, Tatebe N et al.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Bilateral Abducens Nerve Palsy due to Idiopathic Intracranial Hypertension as an Initial Manifestation of Systemic Lupus Erythematosus.	Intern Med. 2016 Apr;55(8):991-4	Case report
32	Takeuchi H, Uchida HA, Okuyama Y et al.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Acute idiopathic blue fingers: a young man with Achenbach's syndrome.	BMJ Case Rep. 2016 Apr;2016:10	Case report

小計16件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
33	Komatsubara M, Hara T, Hosoya T et al.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Melatonin regulates catecholamine biosynthesis by modulating bone morphogenetic protein and glucocorticoid actions.	J Steroid Biochem Mol Biol. 2017 Jan;165(Pt B)	Original Article
34	Wada J.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Salt and sugar: Bad company.	J Diabetes Investig. 2017 Jan;8(1):32-33	Review
35	Takeuchi H, Okuyama M, Uchida HA et al.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Chronic Kidney Disease Is Positively and Diabetes Mellitus Is Negatively Associated with Abdominal Aortic Aneurysm.	PLoS One. 2016 Oct (オンライン); 11(10):e0164015	Original Article
36	Miyawaki Y, Katsuyama T, Sada KE et al.	腎臓・糖尿病・内分泌内科	Development of intracerebral hemorrhage in the short-term clinical course of a patient with microscopic polyangiitis without neurological symptoms at diagnosis; an autopsy case.	CEN Case Rep. 2016 Nov;5(2):173-178	Case report
37	Takaya Y, Akagi T, Nakagawa K et al.	超音波診断センター	Integrated 3D Echo-X-Ray Navigation Guided Transcatheter Closure of Complex Multiple Atrial Septal Defects.	JACC Cardiovasc Interv. 2016 Jun;9(12):e111-2	Original Article
38	Oe H, Ohno Y, Yamanaka T et al.	超音波診断センター	Biatrial Appendage Thrombi in a Heart Failure Patient With Sinus Rhythm: Detailed Assessment by Real-Time 3-Dimensional Transesophageal Echocardiography.	Circulation. 2016 Jan 5;133(1):e1-4	Original Article
39	Nakamura K, Miyoshi T, Yunoki K et al.	循環器内科	Postprandial hyperlipidemia as a potential residual risk factor.	J Cardiol. 2016 Apr;67(4):335-9	Original Article
40	Akagi S, Nakamura K, Akagi T et al.	循環器内科	Feasibility of Repairing Defects Followed by Treatment with Pulmonary Hypertension-specific Drugs (Repair and Treat) in Patients with Pulmonary Hypertension Associated with Atrial Septal Defect: Study Protocol for Interventional Trial.	Acta Med Okayama. 2016 Oct;70(5):397-400	Others
41	Oh H, Ito H, Sano S.	超音波診断センター	Challenges to success in heart failure: Cardiac cell therapies in patients with heart diseases.	J Cardiol. 2016 Nov;68(5):361-367	Original Article
42	Shang J, Yamashita T, Kono S et al.	神経内科	Effects of Pretreatment with Warfarin or Rivaroxaban on Neurovascular Unit Dissociation after Tissue Plasminogen Activator Thrombolysis in Ischemic Rat Brain.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016 Aug;25(8):1997-2003	Original Article
43	Morihara R, Kono S, Sato K et al.	神経内科	Thrombolysis with Low-Dose Tissue Plasminogen Activator 3-4.5 h After Acute Ischemic Stroke in Five Hospital Groups in Japan.	Transl Stroke Res. 2016 Apr;7(2):111-9	Original Article
44	Takagi K, Yagi T, Yoshida R et al.	肝・胆・膵外科	Surgical Outcome of Patients Undergoing Pancreaticoduodenectomy: Analysis of a 17-Year Experience at a Single Center.	Acta Med Okayama. 2016 Jun;70(3):197-203	Original Article
45	Takagi K, Yagi T, Yoshida R et al.	肝・胆・膵外科	Sarcopenia and American Society of Anesthesiologists Physical Status in the Assessment of Outcomes of Hepatocellular Carcinoma Patients Undergoing Hepatectomy.	Acta Med Okayama. 2016 Oct;70(5):363-370	Original Article
46	Yano S, Takehara K, Kishimoto H et al.	消化管外科	Tumor-targeting adenovirus OBP-401 inhibits primary and metastatic tumor growth of triple-negative breast cancer in orthotopic nude-mouse models.	Oncotarget. 2016 Dec;7(51):85273-85282	Original Article
47	Yano S, Takehara K, Tazawa H et al.	消化管外科	Comparison of in vitro invasiveness of high- and low-metastatic triple-negative human breast cancer visualized by color-coded imaging.	In Vitro Cell Dev Biol Anim. 2017 Feb;53(2):96-98	Original Article
48	Kuroda S, Kikuchi S, Nishizaki M et al.	消化管外科	A Phase II Clinical Trial of the Efficacy and Safety of Short-term (3 days) Enoxaparin for the Prevention of Venous Thromboembolism after Gastric Cancer Surgery.	Acta Med Okayama. 2016 Oct;70(5):401-404	Original Article

小計16件

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
49	Yano S, Takehara K, Miwa S et al.	消化管外科	Fluorescence-guided surgery of a highly-metastatic variant of human triple-negative breast cancer targeted with a cancer-specific GFP adenovirus prevents recurrence.	Oncotarget. 2016 Nov;7(46):75635-75647	Original Article
50	Yano S, Takehara K, Tazawa H et al.	消化管外科	Enhanced Metastatic Recurrence Via Lymphatic Trafficking of a High-Metastatic Variant of Human Triple-Negative Breast Cancer After Surgical Resection in Orthotopic Nude Mouse Models.	J Cell Biochem. 2017 Mar;118(3):559-569	Original Article
51	Kikuchi S, Kagawa S, Ohara T et al.	消化管外科	Recurrence after Endoscopic Curative Resection of Mucosal Gastric Cancer Associated with an Adjacent Neoplastic Precursor Lesion.	Acta Medica Okayama, 70(3):213-216, 2016	Case report
52	Kuroda S, Nishizaki M, Kikuchi S et al.	消化管外科	Double-Flap Technique as an Antireflux Procedure in Esophagogastrostomy after Proximal Gastrectomy.	J Am Coll Surg. 2016 Aug;223(2):e7-e13	Original Article
53	Yano S, Takehara K, Tazawa H et al.	消化管外科	Cell-cycle-dependent drug-resistant quiescent cancer cells induce tumor angiogenesis after chemotherapy as visualized by real-time FUCCI imaging.	Cell Cycle. 2017 Mar;16(5):406-414	Original Article
54	Kikuchi S, Nishizaki M, Kuroda S et al.	消化管外科	A case of right-sided Bochdalek hernia incidentally diagnosed in a gastric cancer patient.	BMC Surg. 2016 Jun;16(1):34	Case report
55	Iwamoto T, Kumamaru H, Miyata HS et al.	乳腺・内分泌外科	Distinct breast cancer characteristics between screen- and self-detected breast cancers recorded in the Japanese Breast Cancer Registry.	Breast Cancer Res Treat. 2016 Apr;156(3):485-494	Original Article
56	Nagasaka T, Mishima H, Sawaki A et al.	消化管外科	Protocol of a randomised phase III clinical trial of sequential capecitabine or 5-fluorouracil plus bevacizumab (Cape/5-FU-Bmab) to capecitabine or 5-fluorouracil plus oxaliplatin plus bevacizumab (CapeOX/mFOLFOX6-Bmab) versus combination CapeOX/mFOLFOX6-Bmab in advanced colorectal cancer: the C-cubed (C3) study.	BMJ Open. 2016 Jun;6(6):e011454	Original Article
57	Takagi K, Yagi T, Yoshida R et al.	肝・胆・膵外科	Sarcopenia predicts postoperative infection in patients undergoing hepato-biliary-pancreatic surgery	International Journal of Surgery Open. 2017 Feb;6:12-18	Original Article
58	Takagi K, Yagi T, Shinoura S et al.	肝・胆・膵外科	Syndrome of Inappropriate Antidiuretic Hormone Secretion Following Liver Transplantation.	Acta Med Okayama. 2017 Feb;71(1):85-89	Original Article
59	Araki M, Wada K, Mitsui Y et al.	泌尿器科	The Efficacy of Rituximab in High-risk Renal Transplant Recipients.	Acta Med Okayama. 2016 Aug;70(4):295-7	Others
60	Wada K, Uehara S, Ishii A et al.	泌尿器科	A Phase II Clinical Trial Evaluating the Preventive Effectiveness of Lactobacillus Vaginal Suppositories in Patients with Recurrent Cystitis.	Acta Med Okayama. 2016 Aug;70(4):299-302	Others
61	Takaya Y, Akagi T, Kijima Y et al.	循環器内科	Influence of transcatheter closure of atrial communication on migraine headache in patients with ischemic stroke.	Cardiovasc Interv Ther. 2016 Oct;31(4):263-8	Original Article
62	Takaya Y, Akagi T, Nakagawa K et al.	循環器内科	Integrated 3D Echo-X-Ray Navigation Guided Transcatheter Closure of Complex Multiple Atrial Septal Defects.	JACC Cardiovasc Interv. 2016 Jun;9(12):e111-2	Original Article
63	Takaya Y, Akagi T, Ito H.	循環器内科	Transcatheter closure of atrial septal defect in a patient with absent inferior caval vein connection: a novel technique using a steerable guide catheter.	Cardiol Young. 2016 Jun;26(5):1033-5	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
64	Kotani Y, Kasahara S, Fujii Y et al.	心臓血管外科	A staged decompression of right ventricle allows growth of right ventricle and subsequent biventricular repair in patients with pulmonary atresia and intact ventricular septum.	Eur J Cardiothorac Surg. 2016 Aug;50(2):298-303	Original Article
65	Kimata Y, Matsumoto H, Sugiyama N et al.	形成外科	Lessons Learned from Unfavorable Microsurgical Head and Neck Reconstruction: Japan National Cancer Center Hospital and Okayama University Hospital.	Clin Plast Surg. 2016 Oct;43(4):729-37	Original Article
66	Sugiyama N, Takao S, Suzuki E et al.	形成外科	Risk factors of thrombosis in a single method of microsurgical head and neck reconstruction: A multi-institutional study of 773 reconstructions with a free jejunal graft after total pharyngolaryngoesophagectomy for hypopharyngeal cancer.	Head Neck. 2016 Nov;38(11):1688-1694	Original Article
67	Watanabe S, Takabatake K, Tsujigiwa H et al.	形成外科	Efficacy of Honeycomb TCP-induced Microenvironment on Bone Tissue Regeneration in Craniofacial Area.	Int J Med Sci. 2016 Jun;13(6):466-76	Original Article
68	Onoda S, Kimata Y, Yamada K et al.	形成外科	Relationship of the number and size of superficial groin lymph nodes with the stage of secondary lymphatic edema.	J Surg Oncol. 2016 Dec;114(8):940-946	Original Article
69	Onoda S, Kimata Y, Matsumoto K.	形成外科	Iliolumbar Vein as a Training Model for Microsurgical End-to-Side Anastomosis.	J Craniofac Surg. 2016 May;27(3):767-8	Original Article
70	Onoda S, Kimata Y, Sugiyama N et al.	形成外科	Analysis of 10-Year Training Results of Medical Students Using the Microvascular Research Center Training Program.	J Reconstr Microsurg. 2016 Jun;32(5):336-41	Original Article
71	Hamada T, Sugaya M, Tokura Y et al.	皮膚科	Phase I/II study of the oral retinoid X receptor agonist bexarotene in Japanese patients with cutaneous T-cell lymphomas.	J Dermatol. 2017 Feb;44(2):135-142	Original Article
72	Morizane S, Mizuno K, Takiguchi T et al.	皮膚科	The Involvement of Serum Amyloid A in Psoriatic Inflammation.	J Invest Dermatol. 2017 Mar;137(3):757-760	Original Article
73	Morizane S, Mizuno K, Takiguchi T et al.	皮膚科	Persistent elevation of serum interleukin-6 and serum amyloid A levels in patients with recessive dystrophic epidermolysis bullosa.	Eur J Dermatol. 2017 Feb;27(1):80-81	Original Article
74	Kaji T, Yamasaki O, Takata M et al.	皮膚科	Comparative study on driver mutations in primary and metastatic melanomas at a single Japanese institute: A clue for intra- and inter-tumor heterogeneity.	J Dermatol Sci. 2017 Jan;85(1):51-57	Original Article
75	Naito T, Yoshikawa K, Mizoue S et al.	眼科	Relationship between visual field progression and baseline refraction in primary open-angle glaucoma.	Clin Ophthalmol. 2016 Jul;10:1397-403	Original Article
76	Kimura S, Morizane Y, Toshima S et al.	眼科	Efficacy of vitrectomy and inner limiting membrane peeling in age-related macular degeneration resistant to anti-vascular endothelial growth factor therapy, with vitreomacular traction or epiretinal membrane.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2016 Sep;254(9):1731-6	Original Article
77	Hosokawa M, Morizane Y, Hirano M et al.	眼科	One-year outcomes of a treat-and-extend regimen of intravitreal aflibercept for polypoidal choroidal vasculopathy.	Jpn J Ophthalmol. 2017 Mar;61(2):150-158	Original Article
78	Shiode Y, Morizane Y, Toshima S et al.	眼科	Surgical Outcome of Idiopathic Epiretinal Membranes with Intraretinal Cystic Spaces.	PLoS One. 2016 Dec;11(12):e0168555	Original Article

小計15件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
79	Fujiwara M, Inagaki M, Higuchi Y et al.	精神科神経科	An Open-Label Feasibility Trial of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation for Treatment-Resistant Major Depressive Episodes.	Acta Med Okayama. 2016 Aug;70(4):307-11	Others
80	Shimizu T, Kurozumi K, Ishida J et al.	脳神経外科	Adhesion molecules and the extracellular matrix as drug targets for glioma.	Brain Tumor Pathol. 2016 Apr;33(2):97-106	Original Article
81	Ichikawa T, Otani Y, Kurozumi K et al.	脳神経外科	Phenotypic Transition as a Survival Strategy of Glioma.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 Jul;56(7):387-95	Review
82	Hishikawa T, Sugiu K, Date I.	脳神経外科	Moyamoya Disease: A Review of Clinical Research.	Acta Med Okayama. 2016 Aug;70(4):229-36	Review
83	Yasuhara T, Hishikawa T, Agari T et al.	脳神経外科	Perioperative Management Center (PERIO) for Neurosurgical Patients.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2016 Sep 15;56(9):574-9	Original Article
84	Otani Y, Tokunaga K, Kawauchi S et al.	脳神経外科	Cerebral Infarction Arising from Takotsubo Cardiomyopathy: Case Report and Literature Review.	NMC Case Rep J. 2016 Sep;3(4):119-123	Case report
85	Oka T, Kurozumi K, Shimazu Y et al.	脳神経外科	A super gene expression system enhances the anti-glioma effects of adenovirus-mediated REIC/Dkk-3 gene therapy.	Sci Rep. 2016 Sep;6:33319	Original Article
86	Hiramatsu M, Hishikawa T, Tokunaga K et al.	脳神経外科	Combined gene therapy with vascular endothelial growth factor plus apelin in a chronic cerebral hypoperfusion model in rats.	J Neurosurg. 2016 Dec:1-8	Original Article
87	Hasegawa K, Numakura C, Tanaka H et al.	小児科	Three cases of Japanese acromicric/geleophysic dysplasia with FBN1 mutations: a comparison of clinical and radiological features.	J Pediatr Endocrinol Metab. 2017 Jan;30(1):117-121	Case report
88	Nosaka N, Okada A, Tsukahara H.	小児科	Effects of Therapeutic Hypothermia for Neuroprotection from the Viewpoint of Redox Regulation.	Acta Med Okayama. 2017 Feb;71(1):1-9	Review
89	Ishigami S, Ohtsuki S, Eitoku T et al.	心臓血管外科	Intracoronary Cardiac Progenitor Cells in Single Ventricle Physiology: The PERSEUS (Cardiac Progenitor Cell Infusion to Treat Univentricular Heart Disease) Randomized Phase 2 Trial.	Circ Res. 2017 Mar;120(7):1162-1173	Original Article
90	Hayashi Y, Yoshinaga H, Akiyama T et al.	小児神経科	Predictive factors for relapse of epileptic spasms after adrenocorticotropic hormone therapy in West syndrome.	Brain Dev. 2016 Jan;38(1):32-9	Original Article
91	Kobayashi K, Akiyama T, Oka M et al.	小児神経科	Fast (40-150Hz) oscillations are associated with positive slow waves in the ictal EEGs of epileptic spasms in West syndrome.	Brain Dev. 2016 Nov;38(10):909-914	Original Article
92	Akiyama M, Akiyama T, Kanamaru K et al.	小児神経科	Determination of CSF 5-methyltetrahydrofolate in children and its application for defects of folate transport and metabolism.	Clin Chim Acta. 2016 Sep;460:120-5	Original Article
93	Shibata T, Yoshinaga H, Akiyama T et al.	小児神経科	A study on spike focus-dependence of high-frequency activity in idiopathic focal epilepsy in childhood.	Epilepsia Open. 2016 Dec;1:121-129	Original Article
94	Katayama N, Takemoto M, Takamoto A et al.	放射線科	Comparison of implant quality between intraoperatively built custom-linked seeds and loose seeds in permanent prostate brachytherapy using sector analysis.	J Radiat Res. 2016 Jul;57(4):393-9	Original Article
95	Iguchi T, Hiraki T, Tomita K et al.	放射線科	Simultaneous biopsy and radiofrequency ablation of T1a renal cell carcinoma.	Diagn Interv Imaging. 2016 Nov;97(11):1159-1164	Original Article

小計17件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
96	Fujiwara H, Arai Y, Ishii H et al.	放射線科	Computed Tomography-guided Radiofrequency Ablation for Sub-diaphragm Hepatocellular Carcinoma: Safety and Efficacy of Inducing an Artificial Pneumothorax.	Acta Med Okayama. 2016 Jun;70(3):189-95	Original Article
97	Iguchi T, Sakurai J, Hiraki T et al.	放射線科	Safety of Percutaneous Cryoablation in Patients with Painful Bone and Soft Tissue Tumors: A Single Center Prospective Study (SCIRO-1502).	Acta Med Okayama. 2016 Aug;70(4):303-6	Original Article
98	Sakurai J, Matsui Y, Hiraki T et al.	新医療研究開発センター	Single Center Prospective Phase II Trial of CT-guided Radiofrequency Ablation for Pulmonary Metastases from Colorectal Cancer (SCIRO-1401).	Acta Med Okayama. 2016 Aug;70(4):317-21.	Original Article
99	Katayama N, Yorozu A, Maruo S et al.	放射線科	Predictive factors of rectal toxicity after permanent iodine-125 seed implantation: Prospective cohort study in 2339 patients.	Brachytherapy. 2016 Nov - Dec;15(6):736-745	Original Article
100	Gobara H, Hiraki T, Iguchi T et al.	医療情報部	Acute Bowel Injury due to Cryoablation for Renal Cell Carcinoma: Correlated Radiologic and Pathologic Findings.	Acta Med Okayama. 2016 Dec;70(6):511-514.	Original Article
101	Gobara H, Hiraki T, Iguchi T et al.	医療情報部	Regression of a Pulmonary Arteriovenous Malformation after Acute Interstitial Nephritis.	Intern Med. 2016 Jun;55(11):1487-9.	Original Article
102	Iida A, Nosaka N, Yumoto T et al.	救急科	The Clinical Application of Hydrogen as a Medical Treatment.	Acta Med Okayama. 2016 Oct;70(5):331-337	Original Article
103	Yumoto T, Mitsuhashi T, Yamakawa Y et al.	救急科	Impact of Cushing's sign in the prehospital setting on predicting the need for immediate neurosurgical intervention in trauma patients: a nationwide retrospective observational study.	Scand J Trauma Resusc Emerg Med. 2016 Dec;24(1):147	Original Article
104	Yamashiro K, Nakano M, Sawaki K et al.	歯周科	The potential of positron emission tomography/computerized tomography (PET/CT) scanning as a detector of high-risk patients with oral infection during preoperative staging.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2016 Aug;122(2):242-9	Case report
105	Yamashiro K, Sato A, Okazaki F et al.	歯周科	Medication-related osteonecrosis of the jaws caused lethal sepsis in an edentulous patient with multiple systemic factors.	Clin Case Rep. 2016 Dec;5(2):97-103	Case report
106	Manda Y, Maeda N, Pan Q et al.	咬合・義歯補綴科	New method of neck surface electromyography for the evaluation of tongue-lifting activity.	J Oral Rehabil. 2016 Jun;43(6):417-25	Original Article
107	Maruo Y, Nishigawa G, Irie M et al.	咬合・義歯補綴科	Does acid etching morphologically and chemically affect lithium disilicate glass ceramic surfaces?	J Appl Biomater Funct Mater. 2017 Jan 26;15(1):e93-e100	Original Article
108	Maruo Y, Nishigawa G, Yoshihara K et al.	咬合・義歯補綴科	Does 8-methacryloxyoctyl trimethoxy silane (8-MOTS) improve initial bond strength on lithium disilicate glass ceramic?	Dent Mater. 2017 Mar;33(3):e95-e100	Original Article
109	Murase Y, Hattori T, Aoyama E et al.	口腔外科（病態系）	Role of CCN2 in Amino Acid Metabolism of Chondrocytes.	J Cell Biochem. 2016 Apr（オンライン）; 117(4):927-37	Original Article
110	Yao M, Shimo T, Ono Y et al.	口腔外科（病態系）	Successful treatment of osteonecrosis-induced fractured mandible with teriparatide therapy: A case report.	Int J Surg Case Rep. 2016;21:151-3	Case report
111	Yoshioka N, Shimo T, Ibaragi S et al.	口腔外科（病態系）	Autologous Blood Injection for the Treatment of Recurrent Temporomandibular Joint Dislocation.	Acta Med Okayama. 2016 Aug（オンライン）; 70(4):291-4	Others

小計16件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
112	Kunisada Y, Shimo T, Masui M et al.	口腔外科（病態系）	Detection of sonic hedgehog in a patients undergoing with orthognathic surgery	International Journal of Surgery Open. 2016 Sep;5:1-4	Original Article
113	Ono Y, Shimo T, Shirafuji Y et al.	口腔外科（病態系）	Drug-Induced Hypersensitivity Syndrome Caused by Carbamazepine Used for the Treatment of Trigeminal Neuralgia.	Case Rep Dent. 2016;2016:4605231	Case report

小計2件

合計113件

(注)1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例:　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	(有)・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	(有)・無
・規定の主な内容 ・岡山大学医療系部局生命倫理審査委員会臨床研究審査専門委員会内規 ・岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の実施に係わる標準業務手順書 ・岡山大学医療系部局における臨床研究審査専門委員会標準業務手順書 ・岡山大学医療系部局における研究者主導臨床研究モニタリング標準業務手順書 ・岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の監査に係わる標準業務手順書 ・岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の重篤な有害事象及び不具合発生時の標準業務手順書 ・岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の個人情報等の安全管理に関する標準業務手順書 ・岡山大学医療系部局における人を対象とする医学系研究の人体から取得された試料及び情報等の保管に関する標準業務手順書	
③　倫理審査委員会の開催状況	年１２回

(注)　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
　　2　前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	(有)・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	(有)・無
・規定の主な内容 ・岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメント委員会内規 ・岡山大学医療系部局における利益相反マネジメント委員会標準業務手順書 ・岡山大学医療系部局臨床研究における利益相反マネジメントポリシー	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年１２回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年３４回
・研修の主な内容 ・医師、歯科医師等の臨床研究を行う者に対する研修会（9回） ・臨床研究に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、その他の従業者に対する研修会(14回) ・倫理審査委員会委員等を対象とした研修会（11回）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し，指導医による指導のもと，入院患者・外来患者の診療，臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して，高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて，各学会による認定医・専門医等の資格を取得させることを目的としている。

また，地域において開業，勤務している医師・歯科医師を研修登録医として受け入れ，指導教員の指導のもと，最新の医療知識・医療技術の習得，患者の診療及び症例検討会への参加等により，高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	２５９　人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
大塚　文男	総合内科	科長	２５　年	
岡田　裕之	消化器内科	科長	３３　年	
前田　嘉信	血液・腫瘍内科	科長代行	２４　年	
木浦　勝行	呼吸器・アレルギー内科	科長	３４　年	
和田　　淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科	科長	２５　年	
伊藤　　浩	循環器内科	科長	３４　年	
阿部　康二	神経内科	科長	３８　年	
藤原　俊義	消化管外科	科長	３２　年	
八木　孝仁	肝・胆・膵外科	科長	３４　年	
三好　新一郎	呼吸器外科	科長	３８　年	
土井原　博義	乳腺・内分泌外科	科長	３４　年	
那須　保友	泌尿器科	科長	３１　年	
笠原　真悟	心臓血管外科	副科長	２６　年	
野田　卓男	小児外科	科長	３３　年	
尾﨑　敏文	整形外科	科長	３０　年	
木股　敬裕	形成外科	科長	３３　年	
岩月　啓氏	皮膚科	科長	３９　年	
白神　史雄	眼科	科長	３７　年	
西﨑　和則	耳鼻咽喉科	科長	３８　年	
山田　了士	精神科神経科	科長	３４　年	
伊達　　勲	脳神経外科	科長	３４　年	
森松　博史	麻酔科蘇生科 集中治療部 周術期管理センター	科長 部長 センター長	２３　年	
塚原　宏一	小児科 小児血液・腫瘍科	科長	３１　年	
小林　勝弘	小児神経科	科長	３４　年	

岩崎　達雄	小児麻酔科	科長	２６　年	
平松　祐司	産科婦人科	科長	４０　年	
金澤　　右	放射線科	科長	３６　年	
中尾　篤典	救急科	科長	２４　年	
柳井　広之	病理診断科	科長	２１　年	
鳥井　康弘	総合歯科	科長	３５　年	
吉山　昌宏	むし歯科	科長	３３　年	
髙柴　正悟	歯周科	科長	２９　年	
窪木　拓男	クラウンブリッジ補綴科	科長	３１　年	
皆木　省吾	咬合・義歯補綴科	科長	３９　年	
飯田　征二	口腔外科（再建系）	科長	３１　年	
佐々木　朗	口腔外科（病態系）	科長	３６　年	
浅海　淳一	歯科放射線・口腔診断科	科長	３３　年	
宮脇　卓也	歯科麻酔科	科長	２９　年	
上岡　　寛	矯正歯科	科長	２８　年	
森田　　学	予防歯科	科長	３１　年	
仲野　道代	小児歯科	科長	２４　年	
千田　益生	総合リハビリテーション部	部長	３４　年	
曽我　賢彦	医療支援歯科治療部	副部長	１８　年	
江草　正彦	スペシャルニーズ歯科センタ	センター長	２９　年	

(注) 1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか，外部機関が主催する研修会等に参加させる体制を整えている。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
各部署，チーム等において，多職種の連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域等に関する症例検討，勉強会等により研修を行っている。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1　高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　②．現状
管理責任者氏名	病院長　金澤　右
管理担当者氏名	医療情報部長 郷原 英夫，放射線部長 金澤 右，医療安全管理部長･感染制御部長･医療機器安全管理室長 塚原 宏一，薬剤部長 千堂 年昭，看護部長 前川 珠木，総務課長 木村 勝弘，医事課長 直原 敦美，各科診療科長･中央診療施設長

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	電子カルテで運用しているため，病歴資料についてはコンピュータによる集中管理を行っている。平成２９年６月１日から文書管理システムを導入し，スキャナ取り込みされた紙文書には電子証明・タイムスタンプが付与され，電子カルテ上で原本として管理している。診療録の病院外への持ち出しは禁止している。
		各科診療日誌	各診療科･中央診療施設	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	各診療科・中央診療施設，医療情報部，医事課	
		看護記録	各診療科・中央診療施設，医療情報部，医事課	
		検査所見記録	各診療科・中央診療施設，医療情報部，医事課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	各診療科・中央診療施設，医療情報部，医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科・中央診療施設，医療情報部，医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	企画・広報課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課，薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医事課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理室, 医療安全管理部	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課	
		監査委員会の設置状況	法人監査室	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課，医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課，医療安全管理部	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	法人監査室	
		職員研修の実施状況	総務課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	現時点未実施	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　②．現状	
閲覧責任者氏名	病院長 金澤 右	
閲覧担当者氏名	企画・広報課長 近藤 一彦，医事課長 直原 敦美	
閲覧の求めに応じる場所	小会議室	
閲覧の手続の概要 閲覧の希望がある場合は，学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき，以下のとおり手続きを行う。 ① 開示請求の受付 ② 開示等の検討 ③ 開示等の決定・通知 ④ 開示の実施		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　0　件
	歯科医師	延　0　件
	国	延　0　件
	地方公共団体	延　0　件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

（様式第６）

規則第１条の11第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊒・無
・指針の主な内容： ・安全管理に関する基本的な考え方 ・医療安全管理のための委員会・組織に関する基本的事項（組織図含む） ・医療安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・医療安全管理部（医療安全管理部の設置），医療事故発生時の対応に関する基本方針（医療安全確保を目的とした改善方策に関する基本方針） ・医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む） ・各部門の安全管理マニュアル ・患者からの相談の対応に関する基本方針 ・その他医療安全の推進のために必要な基本方針（エラーが起こりうることを前提とした安全対策の構築，事故防止への包括的アプローチの必要性）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ ㊒・無 ） ・ 開催状況：年１２回 ・ 活動の主な内容： 審議事項として医療事故の防止及び対策，医療事故防止マニュアルの作成，医療事故防止の教育・研修及び警鐘事例周知，インシデントレポート報告	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年３回
・ 研修の主な内容： 第１回）「心肺蘇生法」（全職員対象共通内容）（参加延べ人数）2,698人 第２回）「ＭＲＩ：安全性の考え方，抗菌薬の適正使用について，医薬品の廃棄について，特定機能病院　承認要件見直しについて」(全職員対象共通内容)(参加延べ人数)2,647人 第３回）「大学病院に求められる医療安全のリーダーシップ」（全職員対象共通内容）（参加延べ人数）　2,687人	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 （ ㊒・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： インシデントレポートは医療安全管理部において毎日検討を行った上で，医療安全管理部職員会議を１ヶ月に３回実施し検討している。インシデントレポートは１ヶ月毎に，全報告数，内容，患者影響度，要因等の項目別に集計し，リスクマネジャー会議で報告している。特に検討を要する事例については，個別に事例分析を行っている。分析方法は特定していないが，事例に応じ当事者，当事者以外，ソフトウエア，ハードウエア，管理，環境の面から検討している。 また，マニュアルの整備を行っている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	㊒・無
・　指針の主な内容： 1)　院内感染対策に関する基本的な考え方 2)　委員会について 3)　感染制御部の業務内容 4)　院内感染対策のための職員教育及び研修 5)　感染症の発生状況の報告に関する基本方針 6)　院内感染発症時の対応に関する基本方針 7)　患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 8)　その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針 9)　他施設との感染対浅く地域連携に関する基本方針 10)　一種感染症指定病院としての基本方針 11)　一類感染症，二類感染症，新型ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ等感染症により入院する患者の権利等	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年４８回
・　活動の主な内容： ・感染予防対策委員会　　1回／月　合計12回 ・リスクマネジャー会議（この中でICT全体会議と医療安全会議を行う）　1回／月　合計12回 ・感染制御部職員会議　　1回／月　合計12回 以上３委員会は，それぞれ連携して以下の活動をする。 ①　耐性菌サーベイランス，侵襲的処置別感染症サーベイランス ②　感染予防対策立案と指導，マニュアルの管理 ③　抗菌薬使用の管理 ④　ＩＣＴ（リスクマネジャーがICTメンバーを兼ねる）との連携 ⑤　重症感染症，特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション ⑥　感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営 ⑦　針刺し，体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導 ⑧　その他医療従事者の感染予防と発症時の指導（結核，流行性疾患など） ⑨　医療廃棄物の取り扱いの管理と指導，環境整備に関する管理と指導 ⑩　その他の感染予防対策上の問題への関与 ・看護部感染対策委員会　　1回／月　合計12回 ・手指衛生のコンプライアンスの測定と改善 ・感染防止の視点からの看護手順の作成 ・環境整備の状況把握と指導	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年２１回
・　研修の主な内容： 1)　全職員対象院内感染対策講習会　3回／年（各会1回，②は医療安全研修会と合同開催） ①　結核の院内感染予防とトリアージ診療について，針刺し事故防止，肝炎スクリーニング検査の最近の状況について，ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞﾌﾟﾘｺｰｼｮﾝ ②ＭＲＩ：安全性の考え方，抗菌薬の適正使用について，医薬品の廃棄について，特定機能病院　承認要件見直しについて ③小児ウイルス疾患について（麻疹・水痘・風疹・ムンプスを中心に） 2)　新規採用者研修　　1回 3)　ボランティアに対する研修　1回　インフルエンザ，ノロウイルス感染症 4)　主に看護師対象感染防止技術研修会　　12回 〈内容〉感染予防対策に関する基本的な事項，Device関連の感染予防策，流行性疾患対策等 5)　看護補助者に対する研修会　2回　標準予防策　講義と実技 6)　委託業者（清掃業者）に対する研修会　2回　針刺し予防 インフルエンザとノロウイルス感染症	

④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況
・　病院における発生状況の報告等の整備　　（　㊒・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 　毎月，業務手順書に基づき，薬品情報室にて収集した情報を，情報誌(DI News)に掲載し，各診療科，中央診療施設，看護部に配布し情報提供を行っている。 　また，安全性情報はmailにて配信しており，特に重篤な情報は処方医宛に配信している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回

・ 研修の主な内容：

平成28年4月　新規採用職員オリエンテーション －医療事故防止について(薬剤部)－
平成28年9月　抗菌薬の適正使用について
平成28年9月　医薬品の廃棄について

③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況

・ 手順書の作成　（ (有)・無 ）

・ 業務の主な内容：

・医薬品の採用・購入に関すること
・医薬品の管理に関すること（麻薬を含む。）
・患者の持参薬歴情報等の収集，処方せんの記載に関すること
・患者に対する与薬や服薬指導に関すること
・医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関すること
・他施設（病院等，薬局等）との連携に関すること
・病棟における医薬品管理に関すること
・未承認薬等の使用状況の取集および周知状況に関すること

上記の業務内容について，各担当部署において手順書に基づくチェックリストを作成し，定期的(月1回)に医薬品安全管理責任者が実施状況の確認を行っている。

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

・ 医薬品に係る情報の収集の整備　（ (有)・無 ）

・ その他の改善のための方策の主な内容：

毎月，業務手順書に基づき薬品情報室にて収集した情報を院内情報誌(DIニュース)に掲載し，各診療科，中央診療施設，看護部等に配布し情報提供を行っている。また，安全性情報は院内メールを用いて配信しており，特に重要な情報については処方医宛に配信している。「医薬品の安全使用に関する情報の整備，周知及び当該周知の状況の確認」としては，DIニュース，緊急安全性情報（イエローレター）及び安全性速報（ブルーレター）等が発出された場合，“医薬品情報に関する確認書”を用いて，院内の周知状況を確認する体制を構築し運用している。未承認薬等の使用情報については，未承認新規医薬品・医療機器評価委員会での審査情報や病棟薬剤師等が調剤及び病棟業務を実施する中で未承認薬等の使用に関する情報を収集し，薬剤部内で一元管理を行い，定期的に医療安全管理責任者へ情報提供を行っている。また，未承認薬等の使用情報については，必要に応じてDIニュースやリスクマネジャー会議等で院内全体へ周知できる体制を整備している。更に，薬剤師が調剤および病棟業務を実施する中で，医薬品による有害反応の重篤化を回避した事例や未然に回避した事例等については，毎月リスクマネジャー会議及び医療事故防止委員会で報告を行い，院内全体における医薬品の安全使用を目的とした取組みを行っている。

（様式第 6）

規則第１条の 11 第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	㊒・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年１９６回

・ 研修の主な内容：

・定期研修

1. 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講（学会主催のもの）
2. 人工呼吸器 ：仕様（安全性, 機能等）, 使用方法, アラームとその対処方法及び保守点検修理に関すること等
3. 血液浄化装置： 同 上
4. 除細動装置 ： 同 上
5. 閉鎖式保育器： 同 上
6. 注入ポンプ（ＰＣＡポンプ）： 同 上
7. ＭＲＩ装置の安全性
8. 放射線治療装置装置の安全管理
9. ＲＡＬＳ緊急時マニュアル（医師, 診療放射線技師, 看護師対象）
10. マイクロセレトンＨＤＲ－Ｖ２の安全使用（診療放射線技師対象）

・新しい医療機器導入時の研修

1. ＡＥＤ：機器の取扱い説明
2. ＤＲ装置の新規導入説明会
3. ＣＴ装置の新規導入説明会
4. ＲＡＬＳ装置の新規導入説明会
5. GCA9300R 装置の新規導入説明会
6. 歯科撮影装置（F17、ﾍﾞﾗﾋﾞｭｰ 2DA、MAXiX）の新規導入説明会
7. 高精細ＣＴ撮影装置（ＴＳＸ－３０４Ａ)の新規導入説明会
8. 撮影装置（Digtal Diagnost)の新規導入説明会
9. 新規導入Ｘ線撮影装置（KXO-80SS/DST-2000A）使用説明会
10. 新規導入Ｘ線透視装置使用説明会（ZEXIRA DREX-ZX80、Ultimax-i DREX-UI80）
11. デジタルＸ線乳腺組織撮影装置（AB-35）新規導入装置使用説明会
12. 臨床検査自動分析装置：機器の取扱い説明

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況

・ 医療機器に係る計画の策定 （ ㊒・無 ）

・ 保守点検の主な内容：

1. 人工心肺装置：定期点検 (年１回), 使用前・使用後点検
2. 人工呼吸器 ：定期点検 (年２回), 使用前・使用中・使用後点検
3. 血液浄化装置：定期点検 (年２回), 使用前・使用中・使用後点検, 透析液水質確保加算に係るエンドトキシン測定, 細菌培養（毎月）
4. 除細動装置 ：定期点検 (年２回）, 使用前・使用中・使用後点検
5. 閉鎖式保育器：定期点検 (年２回）, 使用前・使用中・使用後点検
6. Ｘ 線 装 置 ：定期点検 (機種により年 1～4 回), 使用前点検
7. 診療用放射線照射装置：定期点検 (年１回)
8. 臨床検査自動分析装置：定期点検（機種により年 1～4 回）, 使用前点検

④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況
・　医療機器に係る情報の収集の整備　　（　㊒・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 1. 公益財団法人　日本医療機能評価機構　医療安全情報からの情報収集 2. 全国国立大学法人　放射線診療部門会議　医療安全委員会　NEWSLETTERからの情報収集 3. ECMO 迅速対応のための物品カートの作成と物品管理表（滅菌期限）の作成 4. Cryo ポンベ圧の気温による影響低減への取組み 5. 小児血液浄化療法安全施行への取組み：血液製剤プライミング時の自動計算表の作成 6. 栄養ポンプ老朽化に伴う不具合事象への対応

(注) 前年度の実績を記入すること。

（様式第 6）

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	㊒・無
・責任者の資格（医師・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括者として，医療安全管理責任者を配置し，医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理者の各業務について確認を行っている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊒（ 4名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 薬品情報管理室は，院内における医薬品の使用状況，院内におけるインシデント情報，医薬品に対する問い合せ情報，さらには PMDA 等からの情報を定期的に収集している。さらに，得られた情報については，有効的かつ効率的に活用されるように院内情報誌（DI ニュース）等を作成し，院内全部署へ情報提供を行っている。また，イエローレターやブルーレターのように特に重要な情報に関しては，当該医薬品の使用状況から処方医を選定し，個別に情報提供を実施している。 「医薬品に関する情報の周知の状況の確認」としては，薬剤部から情報提供する際，“医薬品情報に関する確認書”を添付し，それを用いて院内の周知状況を確認している。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 未承認等の医薬品の使用状況については，調剤および病棟薬剤業務等の業務を遂行する中で未承認薬等の情報収集を行っている。また，薬剤師が未承認薬等の使用を確認した際は，処方医に対して未承認薬等の使用であることを情報提供し，処方の必要性，有害反応の発現性，そして処方の妥当性を処方医へ確認している。さらに，得られた未承認薬等の使用情報については薬剤部内で一元管理し，定期的に医療安全管理責任者へ報告し，情報の共有化を行っている。 ・担当者の指名の有無（㊒・無） ・担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ，職種 副薬剤部長 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ） （所属： ，職種 ）	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	㊒・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者，標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（ ㊒・無 ）

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認，及び指導の主な内容：

定期的にインフォームド・コンセントの実施状況を確認し，必要に応じて診療科長等会議において，報告及び指導等を行う。

（岡山大学病院おけるインフォームド・コンセントに関する内規による。）

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	㊒・無

・診療録等の記載内容の確認，及び指導の主な内容：

委員会を開催し，診療記録の監査を行う。

庶務は医事課において処理する。

（岡山大学病院診療記録の監査に関する小委員会要項による。）

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	㊒・無

・所属職員：専従（３）名，専任（３）名，兼任（１７）名

うち医師：専従（　）名，専任（２）名，兼任（６）名

うち薬剤師：専従（１）名，専任（　）名，兼任（２）名

うち看護師：専従（２）名，専任（　）名，兼任（２）名

その他：　歯科医師：兼任３名，技術職員：兼任３名，事務職員：専任１名，兼任１名

※8 月 29 日付け　専従医師（教授）を公募（平成 30 年 1 月 1 日付け発令予定）

（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

病院全体の医療安全対策に関する計画立案や評価・改善・医療安全に関する職員の意識向上や指導などの活動を行う。

1．インシデントレポートの集計，分析及びフィードバック並びに再発防止策の立案及び提出などのインシデントの再発防止に関すること。

2．医療安全管理に関するマニュアルの作成及びガイドラインの策定に関すること。

3．職場の安全点検活動及びモニタリングに関すること。

（手術部位のマーキング，急変患者のモニタリング，救急カートの点検・整備）

4．インシデント発生後の対応及び調整などに関すること。（患者・家族への対応も含む。）

5．医療安全に関する教育，啓発及び広報などに関すること。

6．全国医療安全管理協議会に関連した情報交換業務及び全国的調査に関すること。

7．薬剤・医療機器メーカー及び行政への提言に関すること。

8．全死亡症例の把握

9．その他・各種委員会，ワーキングメンバーとしての活動

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には，専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　(有)・無　）
・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に，従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（(有)・無）
・活動の主な内容：
　提供の適否の決定に関すること（確認事項，従業者の遵守事項），評価委員会への諮問，診療科の調整及び適用症例の事後検証等
・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　(有)・無　）
・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　(有)・無　）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め，使用の適否等を決定する部門の状況

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め，使用の適否等を決定する部門の設置の有無（(有)・無）
・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に，従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（(有)・無）
・活動の主な内容：
　使用の条件及び使用の適否の決定に関すること（確認事項，従業者の遵守事項），評価委員会への諮問，診療科との調整及び使用症例の事後検証等
・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　(有)・無　）
・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（　(有)・無　）

⑨　監査委員会の設置状況　　(有)・無

・監査委員会の開催状況：年２回（Ｈ２９年６月，１１月又は１２月実施予定）
・活動の主な内容：
病院の医療安全に係る業務執行の状況に対する監査について審議する。
安全管理状況及び改善状況について審議する。
病院の業務状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認する。
審議の結果に基づき，学長及び病院長に是正措置を講じるよう意見を提出する。
・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　(有)・無　）
・委員名簿の公表の有無（　(有)・無　）

・委員の選定理由の公表の有無（ 有・無 ）

・公表の方法：

岡山大学ＨＰにて公表（情報開示の法定開示情報）

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
石川　紘	岡山県医師会	○	医療に係る安全管理に関する識見を有するため	有・無	1
松井　健二	大林・松井法律事務所		法律に関する識見を有するため	有・無	1
清板　芳子	ノートルダム清心女子大学		医療を受ける者の代表者	有・無	2

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は，次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年２２９件

・上記に掲げる場合以外の場合であって，通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年２０件（無断離院含まず）

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全管理部への報告状況の把握，医療事故調査制度への届け出の有無について確認及び３ｂ以上の内容の把握。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（　有（病院名：11/8 三重大学医学部附属病院実施予定）・(無)）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名:10/31 京都大学医学部附属病院予定）・(無)）

・技術的助言の実施状況

１０月１日現在未実施

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合患者支援センターが窓口となっており，医療事故等に関する場合は，医療安全管理部に連絡が入り，対応を行っている。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（　(有)・無　）

・窓口に提供する情報の範囲，情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（　(有)・無　）

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（　(有)・無　）

⑭ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療安全に関する職員全体研修は年３回実施し，アンケートにより理解度を確認している。

Ｈ２８年度は医療安全管理体制，インシデントレポートシステム，医薬品の安全管理，ＩＣなどについて研修を実施した。

⑮ 管理者，医療安全管理責任者，医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 対象の研修が公表されれば受講予定。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　病院の機能に関する第三者による評価

①　病院の機能に関する第三者による評価の有無	(有)・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による病院機能評価：平成２７年１月受審　平成２７年４月認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	(有)・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・ホームページ及び定例記者発表等を通じての情報発信 ・市民等を対象とした公開講座等の開催	

3　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有)・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・複数の診療科で構成する中央診療施設の設置 ・診療科等の連携によるセンターの設置	

(様式第8)

岡大病総第１２４号
平成２９年１０月２日

厚生労働大臣　　殿

岡山大学病院
病院長　　金　澤　[redacted]

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画に[redacted]

標記について、次のとおり提出します。

記

1.　管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

対象となる研修案内が公表され次第、受講予定。

医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：　専従（３）名　専任（３）名　兼任（１７）名 うち医　師：専従（　）名、専任（２）名、兼任（６）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（２）名 うち看護師：専従（２）名、専任（　）名、兼任（２）名 うちその他　歯科医師：兼任３名、技術職員：兼任３名、 事務職員：専任１名、兼任１名 ※８月２９日付け　専従医師（教授）を公募（平成３０年１月１日付け発令予定）

2.　医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成３０年４月から ・所属職員：専従（４）名、専任（２）名、兼任（１７）名 うち医師：専従（１）名、専任（１）名、兼任（６）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（２）名 うち看護師：専従（２）名、専任（　）名、兼任（２）名 うち歯科医師：兼任（３）名、技術職員：兼任（３）名、事務職員：専任（１）名、兼任（１）名

平成３２年４月から

・所属職員：専従（４）名、専任（１）名、兼任（１７）名
　うち医師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（６）名
　うち薬剤師：専従（１）名、専任（　）名、兼任（２）名
　うち看護師：専従（２）名、専任（　）名、兼任（２）名
　うち歯科医師：兼任（３）名、技術職員：兼任（３）名、事務職員：専任（１）名、兼任（１）名